

富山県の飲酒を考える

富山市民病院神経科精神科 草野 亮
富山保健所 柴 美喜子
中川 秀幸

はじめに

酒は農耕の歴史とともに出現し、発達してきた。穀物や果物を生活の知恵で貯蔵中に自然発酵したものを、偶然に発見されたものが酒であった。日本の酒の最初の出現は、今から約2,000年前の弥生時代といわれ、稲作を中心とする農耕文化のはなやかなりし頃であった¹⁾。

富山県は、立山山系に端を発する清冽な、豊富な水と、扇状地として広がる、肥沃な富山平野に恵まれている。富山県の耕地面積の約95%が水田で、富山県の農業の中心は米作りといわれ、わが国でも有数の米作地帯として、その名がある。そのうまい米と清らかな水からつくられた地酒も、また格別である。この地方には、日本の良き伝統が比較的良好に残され、冠婚葬祭もさかんで、酒を飲む機会にも恵まれているといえよう。

さて、わが富山県人は、どのような酒の飲み方をしているのであろうか。その飲酒の実態は、全国のなかで、どのような位置づけがなされるのであろうか。この論文では、それらのことを考えていきたい。

調査方法および調査対象

額田を班長とする文部省科学研究費総合研究「アルコール飲料の社会医学的研究」が1972年に全国の3,427例について行われているが²⁾、残念ながら富山県はそのサンプリングの中に含まれていない。今回、著者らの調査方法は、その全国調査との比較に便ならしめるために、同様なアンケート方式を用いた。しかし、ア

ルコール中毒に対する意識調査の設問は、著者ら独自のものである⁸⁾。

調査対象は、富山保健所管内（富山市、大沢野町、大山町）の成人男子としたが、調査にあたり、地域町内会の協力を求めて町内の世帯成人男子全員にアンケート用紙記入をってもらう方法と、保健所に来所した成人男子について同様に記入をってもらう方法の二通りを並行して行った。回答を得られた総数は457例であった。なお、統計処理は χ^2 検定による。

調査結果

表1 飲酒頻度

区 分	例数	%	全国(%)
毎 日 飲 む	165	* 36.0	30.4
週 4 ~ 6 日 飲 む	80	* 17.5	11.7
週 1 ~ 3 日 飲 む	109	23.9	26.9
ほとんど飲まない	83	* 18.2	19.8
以前飲んだがやめた	5	* 1.1	3.5
飲 ま な い	15	* 3.3	7.7
計	457	100	100

* P<0.05

1. 飲酒頻度を中心に

まず、富山県の飲酒頻度について、全国調査（額田ら）との比較を試みよう。表1のごとく、われわれの調査では、毎日飲酒者が36.0%おり、週に4日から6日飲む者が17.5%いたが、全国調査のそれぞれ30.4%、11.7%よりも有意に高かった。一方、ほとんど飲まない者が18.2%で、以前に飲んだがやめた者が1.1%、全然飲まない者が3.3%であり、これらはいずれも全国調査の値よりも、有意

に低かった。このことは、富山県が、全国平均よりも、飲酒頻度が高いことをしめしている。とくに、週4日以上毎日飲酒する高頻

度飲酒者についてみると、全国調査の計42.1%に過ぎないのに対して、富山県は53.5%の過半数をしめしていることは特筆されよう。

表2 飲酒頻度(年代別)

年代	例数	毎日飲む	週4~6日飲む	週1~3日飲む	ほとんど飲まない	以前飲んだがやめた	飲まない	計(%)
20代	92	16.3 (11.9)	13.0 (8.5)	41.3 (36.8)	27.2 (30.3)	1.1 (2.7)	1.1 (7.9)	100
30代	125	36.8 (32.4)	19.2 (14.5)	28.0 (30.1)	15.2 (14.5)	0 (2.4)	0.8 (6.1)	100
40代	98	40.8 (37.3)	20.4 (14.1)	14.3 (21.5)	19.4 (14.7)	1.0 (3.9)	4.1 (8.5)	100
50代	56	62.6 (47.0)	8.9 (9.3)	14.3 (17.7)	7.1 (14.4)	0 (4.6)	7.1 (7.1)	100
60代	53	37.6 (44.9)	18.9 (7.9)	13.2 (11.8)	20.8 (17.4)	3.8 (9.6)	5.7 (8.4)	100
70代	33	27.3	27.3	21.1	15.2	3.0	6.1	100
計	457	36.0 (30.4)	17.5 (11.7)	23.9 (26.9)	18.2 (19.8)	1.1 (3.5)	3.3 (7.7)	100

()は全国調査を表す。全国調査では、60代のところに60代と70代を一括して記入してある。

次に、年齢との相関をみてみよう。それを表2にかかげたが、「毎日飲む」について、20才代から70才代まで、年齢を追うて、みていくと、20代の16.3%は比較的低い数字であるが、年齢とともに急速に増加し、50代では実に62.6%という高い値になっている。しかし、60代以上の高年齢となると、再び減少していく傾向がみられた。全国調査でも、ほぼ同様な傾向がみられたが、ただ異なっている点はその年代においても富山県の数値の方が高いということであった。毎日飲酒以外の飲酒頻度傾向については、年代別の規則性ははっきりしない。「週に1日以上毎日飲む」いわゆ

る常用飲酒群については、20代では70.6%、30代では84.0%、40代で75.5%、50代で85.8%、60代で69.7%、70代で75.7%と大体平均化してくる。50代までは、年齢とともに「毎日飲む」方へ、すなわち高頻度飲酒の方へ左方移動する傾向があり、60代を過ぎると、再び、より飲まない方へと右方へ移動していく傾向があることがわかる。全国調査でも、同様に、20代57.2%、30代77.0%、40代72.9%、50代74.0%、60代以上64.6%であり、富山県と比較すると、富山県の方が、全年令にわたって常用飲酒群の%が高いこと、とくに20代と60代以上できわだっていることがわかった。

表3 飲酒頻度(結婚別)

結婚別	頻度	例数	毎日飲む	週4~6日飲む	週1~3日飲む	ほとんど飲まない	以前飲んだがやめた	飲まない	計(%)
未婚		59	11.9	15.3	44.0	27.1	0	1.7	100
既婚		431	40.1	17.2	20.9	16.9	1.2	3.7	100

表4 飲酒頻度(学歴別)

学歴	頻度	例数	毎日飲む	週4~6日飲む	週1~3日飲む	ほとんど飲まない	以前飲んだがやめた	飲まない	計(%)
大学卒		119	28.5 (23.0)	13.4 (10.9)	26.1 (31.9)	26.1 (20.3)	1.7 (4.1)	4.2 (7.7)	100
高校卒		202	39.7 (24.8)	15.8 (12.2)	25.2 (31.2)	17.3 (22.7)	0.5 (2.7)	1.5 (6.5)	100
中学卒		79	40.4 (38.4)	17.7 (12.8)	20.3 (20.4)	16.5 (15.5)	0 (4.0)	5.1 (9.0)	100

()は全国調査

結婚別の比較では、表3にしめしたように、「毎日飲む」を比べると、未婚が11.9%であるのに対して、既婚では40.1%と断然高値となっている。しかし、「週に1日以上毎日飲む」いわゆる常用飲酒群で見ると、未婚71.2%、既婚78.2%と、その差はあまり目立たない。

学歴別にみると、表4にかかげたように、「毎日飲む」では、大学卒28.5%、高校卒39.7%、中学卒40.4%であり、低学歴者程毎日飲

酒者が多い。それは、全国でも同様な傾向がみられている。また、週1日以上毎日飲む常用飲酒群で見ても、大学卒68.0%、高校卒80.7%、中学卒78.4%となり、毎日飲酒者ほどではないが、似たような傾向はみられる。なお、参考のために、全国調査の週1日以上毎日飲む常用飲酒群の値は、大学卒65.8%、高校卒68.2%、中学卒71.6%であった。

表5 飲酒頻度と飲酒場所

場所	頻度	例数	毎日飲む	週4～6日飲む	週1～3日飲む	ほとんど飲まない	以前飲んだがやめた	飲酒者計
自宅		368	85.0 (90.8)	79.0 (74.3)	58.6 (52.1)	49.3 (36.2)	50.0 (33.6)	※ 71.6 (65.1)
のみや		96	9.2 (9.9)	13.0 (21.2)	26.6 (39.6)	37.3 (42.9)	25.0 (52.9)	※ 18.7 (27.8)
友人宅		27	3.4 (2.3)	5.0 (5.3)	7.0 (8.8)	8.0 (17.7)	0 (14.3)	5.3 (7.9)
その他		23	2.4 (0.8)	3.0 (2.3)	7.8 (3.1)	5.3 (6.6)	25.0 (2.5)	※ 4.5 (2.7)

()は全国調査 ※ P<0.05

表6 飲酒頻度と飲酒上の失敗

失敗の内容	頻度	例数	毎日飲む	週4～6日飲む	週1～3日飲む	ほとんど飲まない	以前飲んだがやめた	計
			165	80	109	83	5	442
他に迷惑をかけた		73	20.0 (8.3)	17.5 (10.4)	18.3 (9.0)	7.2 (6.1)	0 (10.5)	※ 16.5 (7.9)
けがをした		32	9.7 (5.7)	7.5 (6.6)	8.3 (4.7)	1.2 (2.2)	0 (1.8)	※ 7.2 (4.4)
けんかをした		23	5.5 (2.9)	8.8 (5.1)	3.7 (3.6)	2.4 (1.8)	20.0 (3.5)	※ 5.2 (3.0)
交通事故		13	5.5 (3.4)	8.8 (3.8)	0.9 (1.3)	0 (1.2)	0 (1.8)	※ 2.9 (2.1)
仕事上のミス		10	3.0 (0.5)	2.5 (0.8)	2.8 (0.7)	0 (0.4)	0 (0.9)	※ 2.2 (0.6)

()は全国調査 ※ P<0.05

次に、飲酒場所について述べると、表5のごとくである。飲酒者計の数字がしめすように、自宅で飲むものが71.6%と圧倒的に高い。しかも、富山県は、全国平均の65.1%よりも有意に高い。次の「のみや」は18.7%と低く、全国平均の27.8%より有意に低い。すなわち、

富山県人は、自宅で酒を飲むマイホーム型が全国よりも多いといえる。友人宅で飲むものは、富山県でも全国でも低く、両者間の有意差はみられなかった。さて、今度は見方を変えて、「自宅」について、飲酒頻度別に数値をみると、「毎日飲む」が85.0%、「週4～6日飲

む」79.0%、「週1～3日飲む」58.6%、「ほとんど飲まない」49.3%のように、飲酒頻度が高い程、自宅で飲む率が高い。全国調査でも、同様の傾向をしめしている。一方、「のみや」で飲む率は、自宅とは逆で、「毎日飲む」9.2%、「週4～6日」13.0%、「週1～3日」26.6%、「ほとんど飲まない」37.3%のように、飲酒頻度が低いもの程、高くなっている。全国調査でも同様であった。

飲酒上の失敗をみると、表6のごとくである。「他人に迷惑をかけたことがある」は、富山県には全体の16.5%にあり、全国調査の7.9%の約2倍であった。「けがをした」「けんかをした」がそれに続いている。飲酒頻度別にみると、やはり高頻度の方に失敗率が高い傾向がある。とくに交通事故は、週4日以上毎日飲酒者に集中している。

表7 酒は人生に必要なか

区分	頻度	例数	毎日飲む	週4～7日飲む	週1～3日飲む	ほとんど飲まない	以前飲んだがやめた	飲まない	計
必要		189	56.2 (62.0)	40.4 (48.1)	33.6 (31.0)	10.3 (12.8)	20.0 (24.2)	0 (7.2)	38.1 (36.8)
時に必要		269	39.5 (32.3)	57.4 (45.6)	60.4 (62.4)	74.8 (63.8)	60.0 (48.3)	50.0 (48.3)	54.3 (50.0)
不必要		14	0.5 (2.5)	0 (2.3)	1.7 (2.8)	9.2 (16.8)	0 (19.2)	21.4 (33.5)	2.8 (8.3)
わからない		24	3.8 (3.3)	2.2 (4.0)	4.3 (3.8)	5.7 (6.6)	20.0 (8.3)	28.6 (11.0)	4.8 (4.9)
計(%)		496	100	100	100	100	100	100	100

()は全国調査

「酒は人生に必要と思うか」という問には、表7のごとく、必要38.1%、時に必要54.3%、不必要2.8%であり、その必要性をみとめているものが、ゆうに92.4%の多きに達している。しかも、不必要の2.8%は、全国調査の不必要と答えたもの8.3%よりも有意に低い。

表8 アルコール中毒者とは

区分	例数	%	A (週1～7日飲む)		B (ほとんど飲まない)	
			例数	%	例数	%
酒をやめられない人	241	47.8	193	48.9	47	45.1
精神病	83	16.5	64	16.2	19	18.3
社会の落伍者	66	13.1	52	13.2	14	13.5
酒ぐせのわるい人	55	10.9	44	11.1	8	7.7
毎日飲酒する人	32	6.3	23	5.8	8	7.7
内臓をわるくした人	27	5.4	19	4.8	8	7.7
計	504	100	395	100	104	100

2. アルコール中毒に対する意識調査

富山県人は、アルコール中毒者をどのように考えているのであろうか。表8にかかげたごとく、酒をやめられない人、精神病、社会の落伍者、酒ぐせのわるい人、毎日飲酒する人、内臓をわるくした人というような順に考

えていることがわかった。とくに、第1位の「酒をやめられない人」と考えるものは、全体の約半数の47.8%にみられた。第2位の「精神病」以下はぐっと少なくなっている。次に酒を飲む者と、飲まない者との間にその考え方に差があるかどうかを調べてみた。すなわち、「週1～7日飲む」いわゆる常用飲酒群(A)と「ほとんど飲まない・全然的まない」の合計の非飲酒傾向群(B)の2群について比較したが、その間には有意差がみられなかった。

表9 アルコール中毒者を見た時の気持

区分	例数	%	A (週1～7日飲む)		B (ほとんど飲まない)	
			例数	%	例数	%
かわいそう	188	48.1	151	48.5	35	45.5
おそろしい	125	32.0	99	31.8	25	32.5
気持ちわるい	45	11.5	36	11.6	9	11.7
こちらも愉快になる	7	1.8	4	1.3	3	3.9
その他	26	6.6	21	6.8	5	6.5
計	391	100	311	100	77	100

アルコール中毒者を見たときの気持については、表9のような回答が寄せられた。すなわち、「かわいそう」が第1位で、つづいて「お

そろしい」、「気持ちがいい」、「こちらも愉快になる」の順であったが、上と同様に、A、B両群の間には有意差がみられなかった。

表10 治療について

区 分	A (週1~7日飲む)		B (ほとんど飲まない)		B (ほとんど飲まない)	
	例数	%	例数	%	例数	%
積極的な治療をすべきだ	340	73.0	266	71.3	71	78.9
本人の意志にまかせる	74	15.9	67	18.0	* 7	7.8
家族の意志にまかせる	43	9.2	32	8.6	*11	12.2
放任すればよい	3	0.6	3	0.8	0	0
その他	6	1.3	5	1.3	1	1.1
計	466	100	373	100	90	100

*P<0.05

最後に、アルコール中毒の治療に関しては、表10のごとく、「積極的な治療をすべきだ」と答えたものが73.0%であったが、「本人の意志にまかせる」や「家族の意志にまかせる」が、それぞれ、15.9%と9.2%にみられた。しかし、「放任すればよい」は、わずかに0.6%であった。これもA、B両群について比較をしたが、A群すなわち常用飲酒群は、B群すなわち非飲酒傾向群よりも、「本人の意志にまかせる」が有意に高く、「家族の意志にまかせる」が有意に低かった。

考 察

額田らは、文部省科学研究費総合研究「アルコール飲料の社会医学的研究」を1972年を中心に行っているが²⁾、彼らが報告したものと、富山県の飲酒状況とを比較することから始めた

い。表11は、全国の職業別比較分類の中に、富山県を置いてしめしたもので、農林水産の人達とよく似た飲酒パターンをしているのがわかる。すなわち、週4~7日飲む高頻度飲酒群が全国平均より多く、週3日以下飲む低頻度飲酒群が少ない。富山県が、わが国の中で、有数の米作地帯として、農業県の性格をもつこととあわせて考えると興味深い。

さて、わが国の地域による飲酒量の違いは、やはり額田によると、図1のようである。日本列島の北端と南端に飲酒量が多く、中央部は比較的少ないようである。しかし、裏日本側は比較的飲酒量が多い傾向がみられる。一般に、飲酒量について、人口の過密と過疎の地域に量が多い傾向があるといわれている。また、生活になんらかのストレスがあると、飲酒量が増加するといわれる。豊かな地域では飲酒量が少なく、豊かでない地域では飲酒量が多い傾向がある。その豊かさは、経済的な豊かさのみならず、娯楽面や、教育・文化面の社会的な豊かさもあるし、また気象・風土などの条件も含まれる。そのようなことを念頭において、日本列島を眺めると興味深い。アルコールの消費量を、都道府県別に数字であらわしたものが表12である。富山県は、47都道府県中の31位であるので、その消費量はそんなに多い方ではないといえる。しかし、5種類のアルコール類のうち、清酒に注目すると、それは秋田を筆頭に、山形、島根、新潟、鳥取、高知、佐賀、福島、岩手、長野、

表11 飲酒頻度と職業別比較

	例数	週4~7日飲む	週3日以下飲む	やめた	飲まない	計(%)
農林水産	369	52.3*	35.4*	5.1*	7.2	100
事務関係	1,764	43.0	47.6	3.2	6.2	100
販売サービス	238	41.0	46.0	3.8	9.2	100
生産運輸	718	38.1*	49.9	2.8	9.2*	100
富山県人	457	53.5*	42.1*	1.1	3.3*	100
全国平均	3,427	42.1	46.7	3.5	7.7	100

「富山県人」以外は額田による

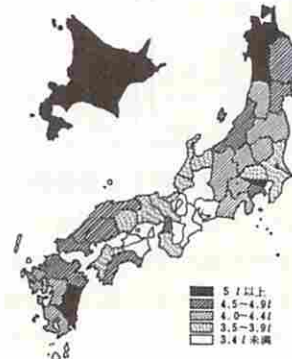


図1 年間ひとりあたりの飲酒量の分布(額田)(国税庁酒類消費数量表 昭42より)

表12 都道府県別酒類消費量

順位	府県名	5酒類の 1人当り 消費量(ℓ)	消費量の内訳(左記はℓ, 右欄は%)									
			清 酒		合 成 清 酒		焼 ち ゅ う		ビ ー ル		多 量 酒	
1	宮 崎	39.06	2.66	6.8	0.02	0.1	30.27	77.5	5.01	12.8	1.10	2.8
2	北 海 道	36.63	14.77	40.3	0.34	0.9	8.92	24.4	6.75	18.4	5.85	16.0
3	秋 田	36.06	24.72	68.6	1.98	5.5	1.41	3.9	5.77	16.0	2.18	6.0
4	高 知	34.11	20.53	60.3	0.41	1.2	4.89	14.3	6.60	19.3	1.68	4.9
5	青 森	33.87	18.57	54.7	0.68	2.1	4.81	14.2	6.36	18.8	3.45	10.2
6	東 京	33.12	13.47	40.7	0.73	2.2	1.31	3.9	10.83	32.7	6.78	20.5
7	大 分	32.56	14.14	43.5	0.08	0.2	10.67	32.8	5.42	16.6	2.25	6.9
8	山 口	32.06	18.05	56.4	0.46	1.4	3.39	10.6	7.58	23.6	2.58	8.0
9	島 根	31.92	21.42	67.1	0.96	3.0	2.77	8.7	5.02	15.7	1.75	5.5
10	島 根	31.33	19.30	61.7	0.23	0.7	4.84	15.4	4.61	14.7	2.35	7.5
11	鹿 児 島	31.18	0.97	3.1	0.04	0.1	24.72	79.3	4.55	14.6	0.90	2.9
12	新 潟	31.09	20.82	66.9	1.05	3.4	1.27	4.1	5.90	19.0	2.05	6.6
13	鳥 取	30.81	20.55	66.7	0.77	2.5	1.34	4.3	6.12	19.9	2.03	6.6
14	山 形	30.68	21.54	70.3	0.39	1.3	2.22	7.2	4.40	14.3	2.13	6.9
15	福 島	30.30	20.19	66.6	0.21	0.7	2.78	9.2	4.69	15.5	2.43	8.0
16	宮 城	30.19	18.49	61.3	0.26	0.9	2.67	8.8	5.59	18.5	3.18	10.5
17	福 岡	30.02	16.62	55.4	0.18	0.6	3.19	10.6	6.90	23.0	3.13	10.4
18	広 島	29.94	16.86	56.3	0.36	1.2	2.00	6.7	8.19	27.3	2.53	8.5
19	長 崎	29.78	15.26	51.2	0.09	0.3	6.67	22.4	5.63	18.9	2.13	7.2
20	熊 本	29.47	10.66	36.2	0.09	0.3	12.50	42.4	4.74	16.1	1.48	5.0
21	山 梨	28.85	18.03	62.5	0.11	0.4	3.08	10.7	5.15	17.8	2.48	8.6
22	長 野	28.75	18.76	65.3	0.51	1.8	2.31	8.0	4.97	17.3	2.20	7.6
23	大 阪	28.74	13.69	47.6	0.25	0.9	0.78	2.7	10.47	36.4	3.55	12.4
24	佐 賀	28.63	20.28	70.9	0.15	0.5	1.98	6.9	4.87	17.0	1.35	4.7
25	静 岡	27.97	15.53	55.5	0.62	2.2	2.28	8.2	6.86	24.5	2.68	9.6
26	神 奈 川	27.18	12.55	46.2	0.69	2.5	1.17	4.3	7.69	28.3	5.08	18.7
27	栃 木	26.64	17.59	66.1	0.14	0.5	2.03	7.6	4.88	18.3	2.00	7.5
28	群 馬	26.42	16.18	61.2	0.18	0.7	2.86	10.8	4.85	18.4	2.35	8.9
29	茨 城	26.40	17.28	65.5	0.10	0.4	1.70	6.4	5.12	19.4	2.20	8.3
30	愛 媛	26.33	15.26	58.0	0.14	0.5	3.34	12.7	6.11	23.2	1.48	5.6
31	富 山	26.28	18.09	68.8	0.22	0.8	0.66	2.5	5.56	21.2	1.75	6.7
32	岡 山	25.06	15.66	62.5	0.23	0.9	1.23	4.9	5.84	23.3	2.10	8.4
33	千 葉	24.58	13.43	54.7	0.25	1.0	1.39	5.6	6.26	25.5	3.25	13.2
34	兵 庫	24.53	12.93	52.7	0.19	0.8	0.91	3.7	8.05	32.8	2.45	10.0
35	和 歌 山	24.42	15.22	62.4	0.10	0.4	0.94	3.8	6.81	27.9	1.35	5.5
36	京 都	24.12	12.94	53.6	0.21	0.9	0.61	2.5	7.78	32.3	2.58	10.7
37	福 井	23.72	15.58	65.7	0.12	0.5	0.59	2.5	6.08	25.6	1.35	5.7
38	石 川	23.53	15.67	66.6	0.10	0.4	0.47	2.0	5.86	24.9	1.43	6.1
39	沖 縄	23.00	0.08	0.3	0.00	0.0	13.42	58.3	4.52	19.7	4.98	21.7
40	埼 玉	22.99	13.14	57.2	0.27	1.2	1.13	4.9	5.55	24.1	2.90	12.6
41	徳 島	22.96	14.89	64.8	0.08	0.3	1.81	7.9	4.95	21.6	1.23	5.4
42	滋 賀	22.15	15.16	68.5	0.23	1.0	0.56	2.5	4.82	21.8	1.38	6.2
43	愛 知	21.65	11.17	51.5	0.23	1.0	0.94	4.5	6.96	32.1	2.35	10.9
44	香 川	21.57	13.28	61.6	0.18	0.8	0.75	3.5	5.71	26.5	1.65	7.6
45	岐 阜	20.88	12.63	60.5	0.27	1.3	0.78	3.7	5.47	26.2	1.73	8.3
46	三 重	20.31	12.62	62.1	0.25	1.2	1.27	6.3	4.67	23.0	1.50	7.4
47	奈 良	19.60	12.56	64.1	0.09	0.5	0.59	3.0	5.06	25.8	1.30	6.6
全国	平 均	28.38	14.77	52.1	0.37	1.3	3.05	10.7	7.01	24.7	3.18	11.2

注1) この表は、府県別社会環境と酒類消費量の関係(東海酒類研究会、醸造評論、第247号、昭48)を基にして作成した。

注2) 消費量(ℓ)は、すべて、実際の消費量(ℓ)につきの係数を乗じて、清酒相当量に換算してある。

酒 類	清 酒	合 成 清 酒	焼 ち ょ う	ビ ー ル	多 量 酒
係 数	1	1	$\frac{25}{16}$	$\frac{1}{4}$	2.5

(佐藤)

青森、宮城について、富山県は第13位である。また、5種類のアルコール類の中で清酒の占める割合をみると、富山県は68.8%で、佐賀の70.9%、山形の70.3%について、実に第3位の高さである。一般に、清酒は、農村に多く、都市に少ない傾向があるといわれる。最近の農村の都市化傾向とともに、農村でも洋酒化の傾向もみられてきているともいわれている。しかし、それは農村と都市の差のみならず、経済成長とともに国民所得が向上して、消費の多様化や生活様式の洋風化傾向とともに洋酒化嗜好の方向にすすんでいるともいわれている。その中で、富山県の清酒率が依然として高いことは、いろいろな意味で、示唆に富んでいる。富山県は、全国の中では農業県として位置づけられ、古き良き伝統を残している反面、封建的で、後進性、保守性の傾向の表現と考えられなくもない。

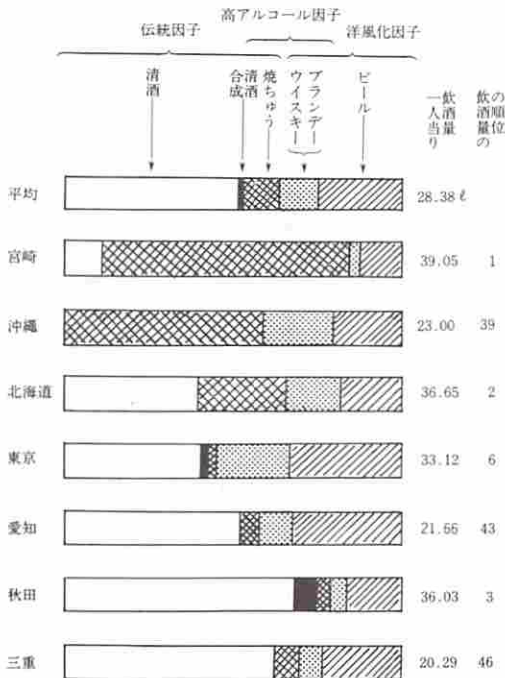


図2 府県別飲酒量のパターン(%表示) (佐藤)

佐藤信は、飲酒パターンによって、別の面から、都道府県の興味ある分類を行っている。³⁾⁴⁾ 図2のように、彼は、清酒因子、高アルコール因子、洋風化(ビール・ウイスキー・ブラ

表13 飲酒パターンによる府県の分類

(宮崎県型)	宮崎, 大分, 鹿児島, 熊本,
(北海道型)	北海道
(秋田県型)	秋田, 高知, 青森, 島根, 岩手, 新潟, 鳥取, 山形, 福島, 宮城, 山梨, 長野, 佐賀, 栃木, 群馬, 茨城, 富山, 福井, 石川, 滋賀
(東京都型)	東京, 大阪, 神奈川
(愛知県型)	愛知, 兵庫, 京都
(三重県型)	三重, 和歌山, 徳島, 岐阜, 奈良
(沖縄県型)	沖縄
(平均型)	山口, 福岡, 広島, 長崎, 静岡, 愛媛, 岡山, 千葉, 埼玉, 香川 (佐藤)

ンデー) 因子の3つの因子を共通因子として抽出し、その比率と飲酒量とから、8つのタイプに分類した。たとえば、宮崎と沖縄は、高アルコール因子と洋風化因子が大きいことで類似しているが、1人当たりの飲酒量が宮崎では非常に多く(1位)、沖縄では非常に少ない(39位)という点で異なっている。北海道の場合、高アルコール因子と洋風化因子が大である点が沖縄のパターンに似ているが、清酒もかなり飲まれており、沖縄と次の東京の中間の性質をもつといえる。東京都の場合、洋風化因子が非常に大きい点が、はなはだ特徴的である。愛知のパターンは、東京のパターンによく似ていて都会型を示しているが、1人あたりの飲酒量のはるかに少ない。すなわち、東京の飲酒量が6位であるのに、愛知は43位とその間に大きな差がある。秋田の場合は、清酒の飲酒量が圧倒的に多い点が大きな特徴である。また、1人あたりの飲酒量も3位と高い。三重の場合は、秋田のパターンによく似ているが、1人あたりの飲酒量が非常に少ない点が異なっている。その8つのタイプにそれぞれ属する各都道府県の名を表13にしめしてある。わが富山県は秋田県型に属している。この型に属しているのは、東北6県と裏日本といわれる諸県であり、わが国の代表的な米作地帯であり、清酒の製造が古くから多く行われてきたところである。また、概して寒く、冬の長い気候のところが多く、飲酒が慣行化され、清酒中心の伝統的な飲酒文化が形づくられているところが多い。また、

若い者が都会へ流出し、人口の高齢化傾向のあるところに、この清酒優位型が目立つといわれるが、上にあげた地方も、このような傾向がみられるのかも知れない。そのようなことをみてくると、わが富山県の現実について、あらためて考えさせられる。

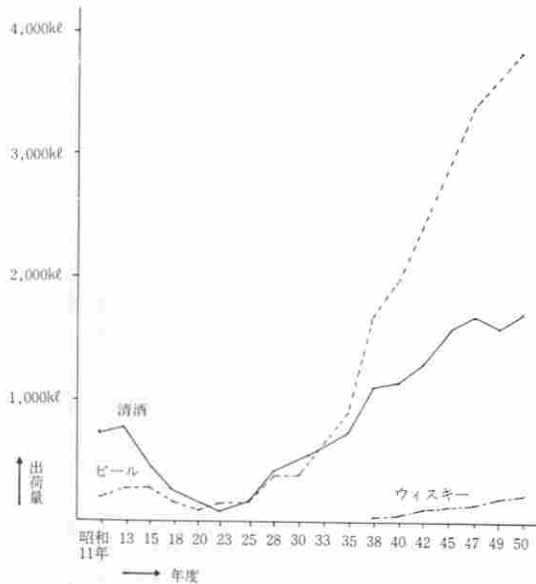


図3 清酒・ビール・ウィスキーの推移(富山県商工労働部資料)

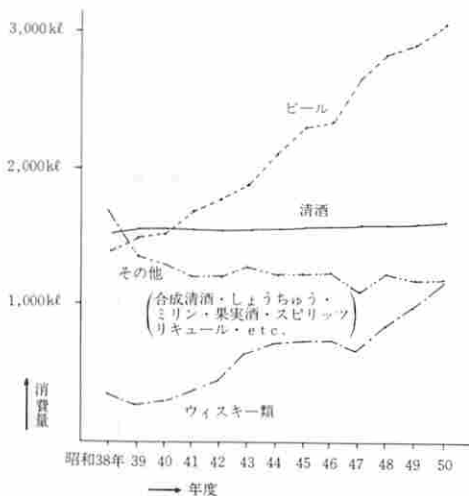


図4 富山県の酒類消費動向(富山県商工労働部資料)

さて、飲酒の様態について、これまで、地域的にみてきたが、次に時間軸で追ってみよう。わが国の代表的アルコール飲料すなわち清酒、ビール、ウィスキーの年度別推移をみたのが、図3である⁶⁾。昭和の初めには、全国

的に清酒が優位であったが、高度成長とともに国民所得が向上するにつれて、清酒がうなぎのぼりに上昇しているが、その上昇率はビールが清酒を上まわって、昭和30年代後半にはビール優位となっていることがわかる。富山県の消費動向をみたのが図4である。これは最近10数年間の推移であるが、清酒優位型である富山県でも、清酒が頭うちとなり、ビールやウィスキー類が増加傾向にあることがわかる。もっとくわしくみるために、全国と富山県の消費量の推移を、参考のため表14にかかげた。富山県商工労働部は、それらに関連して、県民のもっともよく飲まれるアルコール類をアンケート調査で調べているが、それを引用すると表15のごとくである。これまで述べてきたごとく、県民のアルコール嗜好は、清酒がもっとも多く、ついでビール、洋酒の順と続いている。年代別には、若い年代ではビールや洋酒のウェイトが高くなり、高年齢層では清酒が高いのは、これまでわれわれが述べてきたところと一致している。

さて、著者らの調査では、飲酒頻度について、富山県人は全国平均よりも高いということがわかった。富山県は、わが国の中でも米作地帯としての位置づけがなされ、古くからうまい米と清らかな水による清酒づくりがさかんで、お酒はわれわれの身近かにあり、なにかにつけて飲酒の慣行がなされてきたためであろう。古き伝統が残る地方でもあり、冠婚葬祭の盛んな地方的特性をもっている。その際には、いつも酒がつきものである。

毎日飲む者は、若い年齢よりも、中高年齢者になるにしたがって多い傾向がみられた。若い者には、飲酒以外に、娯楽や文化・スポーツ面でやることが多いからであろう。中年になると、趣味や興味の範囲も狭くなり、手軽な飲酒をえらぶ傾向があるのでであろう。自宅で一ぱいというようなマイホーム型が富山県人に多いが、中高年には仕事上の飲酒も多くなるのでであろう。しかし、中高年齢者の飲

表14 全国及び富山県の酒類消費量の推移

年度	区分	消費数量(kℓ)					構成比(%)					昭和38年を100とした推移				
		清酒	ビール	ウイスキー類	その他	計	清	ビ	ウ	他	計	清	ビ	ウ	他	計
昭和38年	全国	1,071,506	1,621,433	49,992	381,483	3,124,414	34.2	51.9	1.6	12.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	富山	15,462	14,091	352	1,707	31,612	48.9	44.6	1.1	5.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
39	全	1,152,594	1,889,635	53,775	356,815	3,452,819	33.4	54.7	1.6	10.3	100.0	107.6	116.5	107.6	93.5	110.5
	富	15,691	15,176	276	1,377	32,520	48.2	46.7	0.8	4.3	100.0	101.5	107.7	78.4	80.7	102.8
40	全	1,196,846	1,922,629	64,592	369,140	3,553,207	33.9	54.4	1.8	9.9	100.0	111.7	118.6	129.2	96.7	113.7
	富	15,685	15,330	306	1,309	32,630	48.0	47.0	0.9	4.1	100.0	101.4	108.8	86.9	76.7	103.2
41	全	1,343,912	2,061,558	80,798	348,544	3,834,812	35.1	53.7	2.1	9.1	100.0	125.4	127.1	161.6	91.3	122.7
	富	17,019	16,801	361	1,217	35,398	48.1	47.5	1.0	3.4	100.0	110.0	119.2	102.5	71.3	112.0
42	全	1,359,734	2,407,331	97,336	341,991	4,206,392	32.3	57.2	2.3	8.2	100.0	126.9	148.5	194.7	89.6	134.6
	富	16,023	17,606	451	1,214	35,294	45.4	49.9	1.3	3.4	100.0	103.6	124.2	128.1	71.1	111.6
43	全	1,400,491	2,396,383	106,219	343,157	4,246,250	33.0	56.4	2.5	8.1	100.0	130.7	147.8	212.5	90.0	135.9
	富	16,356	18,779	642	1,282	37,059	44.1	50.7	1.7	3.5	100.0	105.8	133.2	182.4	75.1	117.2
44	全	1,493,552	2,676,637	122,042	329,788	4,622,019	32.3	57.9	2.6	7.2	100.0	139.4	165.1	244.1	86.4	147.9
	富	17,544	21,006	708	11,220	40,498	43.3	51.8	1.7	3.2	100.0	113.5	149.1	201.1	71.5	128.1
45	全	1,529,253	2,909,166	131,996	328,861	4,899,276	31.2	59.4	2.7	6.7	100.0	142.7	179.4	264.0	86.2	156.8
	富	18,635	22,916	717	1,216	43,484	42.8	52.7	1.6	2.9	100.0	120.5	162.7	203.7	71.2	137.6
46	全	1,553,237	3,029,066	138,249	319,937	5,040,489	50.8	60.1	2.7	6.4	100.0	144.9	186.8	276.5	83.8	161.3
	富	19,080	23,378	729	1,283	44,370	43.0	52.7	1.6	2.7	100.0	123.4	165.9	207.1	75.1	140.4
47	全	1,615,871	3,336,118	153,612	322,214	5,427,815	29.8	61.5	2.8	5.9	100.0	150.8	205.7	307.3	84.5	173.7
	富	19,595	26,582	642	1,080	47,899	40.9	55.5	1.3	2.3	100.0	126.7	188.6	182.4	63.2	151.5
48	全	1,655,895	3,581,766	180,268	330,158	5,748,087	28.8	62.3	3.1	5.8	100.0	154.5	220.9	360.6	86.5	184.0
	富	19,531	28,273	818	1,208	49,830	39.2	56.7	1.6	2.5	100.0	126.3	200.6	232.4	70.7	157.6
49	全	1,652,176	3,668,611	208,430	324,799	5,854,016	28.2	62.7	3.5	5.6	100.0	154.2	226.3	416.9	85.1	187.4
	富	19,839	28,932	941	1,175	50,887	39.0	56.8	1.8	2.4	100.0	128.3	205.3	267.3	68.8	160.9
50	全	1,674,765	3,736,305	237,759	327,343	5,978,111	28.0	62.5	4.0	5.5	100.0	156.3	230.4	475.6	85.8	191.3
	富	20,186	30,441	1,128	1,159	52,914	38.1	57.5	2.1	2.3	100.0	130.5	216.0	320.5	67.9	167.4

(注)「酒税消費数量」とは、酒類製造業者の消費者への直接売り数量、酒類卸売業者の消費者への直接売り数量及び酒類小売業者の販売数量の販売数量の合計数量である。(国税局の統計資料より)

表15 最も良く飲まれるアルコール類(県内のみ)

年代	性別	清酒		ビール		洋酒		その他		計	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成費	回答数	構成費	回答数	構成費
20代	男	28	51.9%	19	35.2%	7	12.9%		%	54	100%
	女	6	31.6%	8	42.1%	5	26.3%			19	100%
30代	男	36	52.2%	25	36.2%	8	11.6%			69	100%
	女	5	50.0%	4	40.0%			1	10.0%	10	100%
40代	男	30	71.4%	8	19.0%	4	9.6%			42	100%
	女	2	100%							2	100%
50代	男	29	85.3%	3	8.8%	2	5.9%			34	100%
	女										
60代	男	12	92.3%	1	7.7%					13	100%
	女										
計		148	60.9%	68	28.0%	26	10.7%	1	0.4%	243	100%

(富山県商工労働部資料)

酒頻度の高さは、彼らの若い頃の娯楽施設の乏しさの反映としての飲酒習慣の延長ということも、考慮の一端に加えなければならないかも知れない。60才以上の飲酒頻度の減少傾

向は、年齢による体力の衰えや、仕事の現役を引退したための社交酒の減少とも考えられよう。次に学歴別の比較で、高学歴者が低学歴者よりも飲酒頻度が少ないということは、

前者では趣味や教養面の多様性と関連があるであろう。また、逆に、低学歴者は、社会的地位や経済面でもストレスが多く、それが飲酒頻度を増しているということもできるであろう。既婚者が未婚者よりも飲酒頻度が高いことは、日本独得の晩酌が、家長の特権として社会に認容されてきた歴史的事実による飲酒慣行でもあろうし、また家庭をもったよろこびと安定感がそれをさせることにもあろう。ちなみに、飲酒の多くは自宅で行われ、「のみや」などは、一部の限られた場合のようである。すなわち、高頻度飲酒者になる程、自宅で飲むものが多くなり、「のみや」で飲むのはあまりのまない低頻度飲酒者という傾向がみられた。飲酒上の失敗では、富山県人は、「他人に迷惑をかけたことがある」ものが、全国平均よりも2倍も高かったことは特筆に値する。その理由は、飲酒頻度が全国平均よりも多いせいであろうが、富山県人の真面目な、内省的な性格傾向が自分を見つめ、そのように自分を評価しているといえるのかも知れない。しかしまた、別の面からみると、表日本のような、開放的で、カラッとした人間関係と違って、閉鎖的で、格式張った人間関係が、ささいな行為を、自他ともに迷惑行為と考える傾向が、上のような高い数値となって表われたと解することもできようか。ちなみに、「迷惑」以外の、客観的に評価できる他の失敗については、全国平均との差はみられない。さて、富山県人は飲酒頻度が比較的高いことを述べてきたが、「酒は人生にとって必要である」と考えるものも全国平均より多い。実に92.4%もの大部分の県人が、その必要性を認めている。逆に「不必要」と答えたものは、わずか2.8%に過ぎず、全国平均よりも有意に低い。すなわち、県人は酒により親近感をもっているといえよう。最後に、アルコール中毒に関する意識調査についてすこし触れると、アル中者の定義については、全体の半数のものが、「酒をやめられない人」と考え、残りの

半数がそれぞれ、「精神病」、「社会の落伍者」、「酒ぐせのわるい人」、「毎日飲酒する人」、「内臓をわるくした人」に分け合っていた。アル中者を、精神病や社会の落伍者のように評価する考え方の少ない傾向は、富山県人が昔から飲酒による行為に寛大であることと、現代の人権思想の風潮に影響されているのであろう。参考までに、WHOのアルコール中毒の定義によると「アルコールの精神的ならびに身体的依存」という考え方であり、その富山県人の半数の考え方がそれに近いといえる。アルコール中毒の治療に関しては、「積極的に治療をすべきだ」としたものが、全体の3%であったが、「本人の意志にまかせる」が約1.5割にみられ、「家族の意志にまかせる」が1割であった。飲酒者群は、非飲酒者群よりも、アルコール中毒の治療を「本人の意志にまかせるが」多く、「家族の意志にまかせる」が少なかった。それは、飲酒群が、「明日はわが身」と考えたのか、あるいは飲み仲間の同情心からか、いずれにしても面白い結果であった。

今回の調査は、主として飲酒頻度を中心に行われたが、機会があれば、他の面についても調査研究をしていきたいと考えている。

む す び

1. 富山保健所管内の成人男子 457名について飲酒実態調査を行った。
2. 富山県人には、週に4日以上常飲する高頻度飲酒者が、全国平均よりも多かった。
3. 毎日飲酒者は、調査総数の36.0%にあたるが、年齢別推移では、20才より50才までは増加傾向を、60才以下では再び減少傾向をしめした。
4. 未婚者より既婚者に飲酒頻度が高く、また、高学歴者より低学歴者に飲酒頻度が高い傾向がみられた。
5. 自宅を主な飲酒場所とするものが71.6%で、それは全国平均より有意に高い。
6. 飲酒上の失敗について、「他人に迷惑をか

けたことがある」が全国より有意に高い。

7. わが国における飲酒について文献的考察を行い、富山県の飲酒状況についての位置づけをも行った。

参考文献

- 1) 和歌森太郎：酒が語る日本史，河出書房，1972。
- 2) 額田繁：アルコール中毒の疫学，加藤，大原，河野編：アルコール中毒，P18-44，医学書院，東京1973。
- 3) 西川，額田，上野編：日本の飲酒を考える，医学書院，1975。
- 4) 大橋薫編：アルコール依存の社会病理，星和書店，1980。
- 5) 齊藤，柳田，島田編：アルコール依存症，有斐閣

選書，1979。

- 6) 富山県商工労働部経営指導課編：富山県清酒業産地診断報告書（S53.2）
- 7) 佐々木武史：日本人の飲酒状況，公衆衛生，42：301-308，1978。
- 8) 草野，山野，沖，中川：学校教師のアルコール中毒に対する態度と飲酒様態について，アルコール研究，15（4補）：73-74，1980。
- 9) 草野，沖，山野，中川：養護学校教師と普通学校教師の飲酒様態の差異について，アルコール研究と薬物依存，16（4補）：101-102，1981。
- 10) 草野，沖，菅野，中川：富山県民の飲酒実態調査——学校教師の場合——，とやま県医報，No808,10-15，1981。